

令和5年1月 27 日  
新潟大学医歯学総合病院

### 医療事故の概要

このたび、下肢の腫瘍の切除と人工骨頭による再建術を行った際、本来切除する予定がなかった下肢の動脈を切除し、翌日再手術が必要になったという事故が発生しましたので、ご報告いたします。

- 1 患者さまは、本県在住の 60 歳代の女性で、2022 年 11 月に下肢の腫瘍の切除と人工骨頭による再建術を行いました。その際、切除した腫瘍の中に下肢の動脈が含まれていることがわからず、本来切除する予定がなかった同動脈を切除してしまいました。翌日になって、下肢の虚血（血流の低下）が生じていることがわかり、精査の結果、本来切除する予定がなかった下肢の動脈を切除してしまったことが判明しました。
- 2 下肢の虚血が判明した時点ですみやかに緊急手術を行い、切断された動脈を人工血管を用いて再建しました。患者さまは術後集中治療室に入室して厳重な管理を行っていましたが、再手術後は順調に回復され、集中治療室を退室されています。
- 3 当該診療科からはすみやかに事故の報告があり、報告を受けて医療安全管理委員会を開催して、調査を行いました。その結果、今回切除した動脈は細く蛇行していたため、他の動脈との区別がつきにくかったこと、もともと下肢の動脈の脈（拍動）が触れにくく、血流の低下に気づくことが難しかったことが挙げられました。
- 4 再発防止策として、術前に造影 CT 検査などで動脈の走行をより詳細に検討しておくこと、術後に血流の障害が生じうることを念頭において、術後複数のスタッフで血行を評価すること、が挙げられました。
- 5 患者さま及びご家族さまには、事故の発覚後すみやかに事実経緯を伝え謝罪しました。患者さまは現在も本院で治療を継続しておられます。

このたびは、患者さま並びにご家族の皆さまに大きな不安と苦痛を与えてしまい、大変申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。